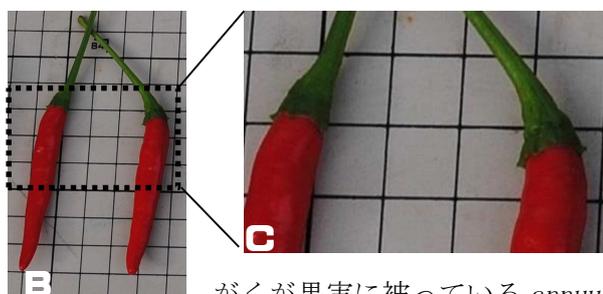
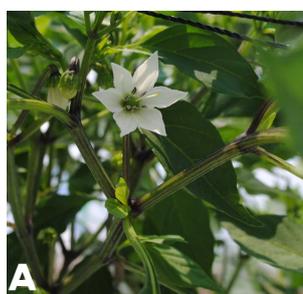


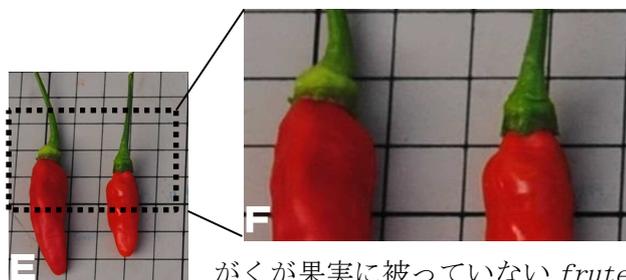
PGRAsia プロジェクトで収集した トウガラシ遺伝資源の特性



写真1 特性調査実施時期の植物体(A)とネットをかけて採種中のほ場(B)



がくが果実に被っている *annuum* 種



がくが果実に被っていない *frutescens* 種

写真2 供試系統にみられた花の色(A, D)およびがくの形状の差異(B, C, E, F)

当センターでは、研究課題「先進的なニーズを捉えた野菜、花きの中間母本の育成」の中で、ピーマン類の育種素材開発に取り組んでおり、トウガラシ属植物の遺伝資源の特性を調査しています。

2017年度には、カンボジアで収集された33系統の特性を調査しました(写真1A)。そのうち花の色およびがくの形状等の形質には明確な系統間差がみられ、33系統中10系統は「鷹の爪」と同じ *annuum* 種(写真2A~C)、23系統は「Tabasco」で知られる *frutescens* 種(写真2D~F)と推察されました。

特性調査後にはネットをかけ(写真1B)、虫や風による系統間の交雑を防いで採種しました。各系統の種子と特性データは農研機構遺伝資源センターにおいてデータベースにまとめられ、本県を含む国内外の機関での新品種の育成に利用されます。

なお、この研究は2017年度農林水産省委託プロジェクト研究「海外植物遺伝資源の遺伝特性解析・収集(PGRAsia)」において実施しました。

(園芸育種担当 横田真 088-863-4916)